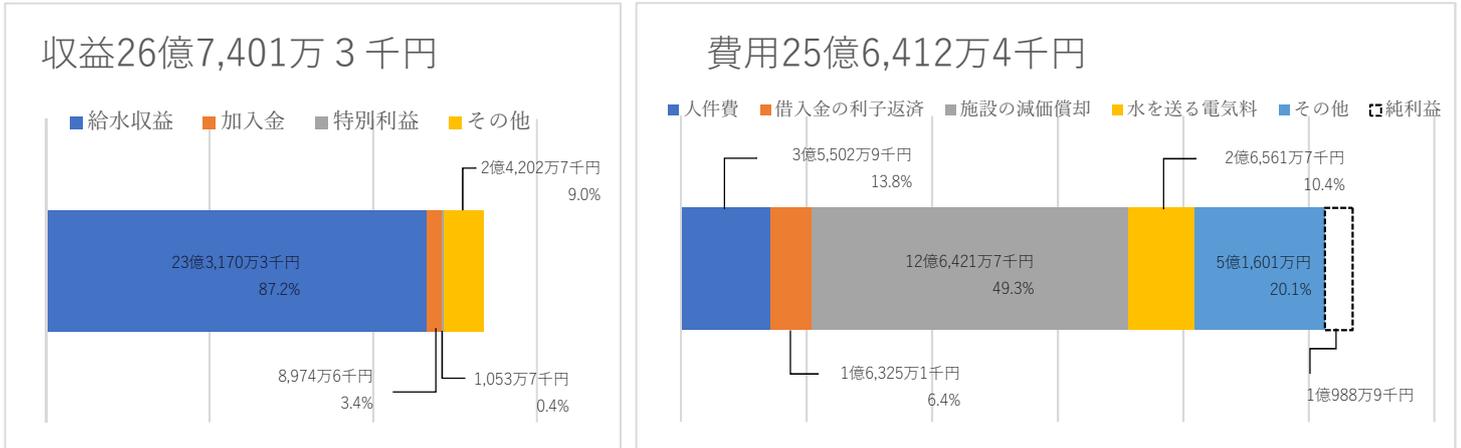


令和4年度決算

(1) 決算の概要（特徴的な事項を記載しています。）

収益的収支（税抜）

収益的収支とは、水道事業における通常の経営活動にかかる収益と費用です。



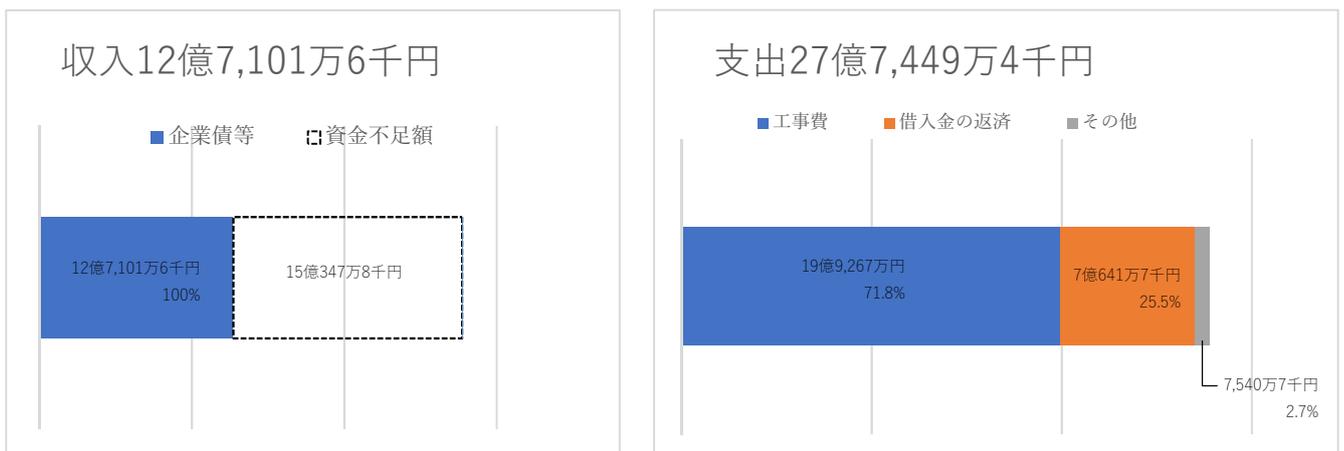
※ 費用のうち、「その他」は、水道施設（水道本管、配水池、水道設備など）を維持管理する経費、水道水を消毒するための薬品購入費、水道本管の漏水時の緊急工事費、材料費など、安心・安全な水を提供するための経常的に支出する経費です。

< 収益的収支の概要 >

- 給水収益は、約23億3,170万3千円で、人口減少や節水機器の普及、節水意識の向上により、対前年度比約6,700万円減少（▲2.8%）しました。
- 特別利益は、約1,053万7千円で、水道事業で所有している土地のうち、未利用地（水道事業の用地として使用していない土地）を令和4年度に売却し、売却金額から土地の簿価（取得価額）を差し引いた金額で、約1,053万7千円を計上し、前年度は0円のため、皆増しました。
- 令和4年度は、電気料金（動力費）が高騰し、約6,600万円増額しました。このことなどにより、純利益は約1億1,000万円を計上したものの、対年度比約1億2,600万円減少（▲53.4%）しました。

資本的収支（税込）

資本的収支とは、老朽化が進む水道施設の整備のほか、企業債の借入や、償還にかかる収入と支出です。



※ 資金不足額は、内部留保資金で補てんしました。

「内部留保資金」（「補てん財源」とも呼ばれます）とは、減価償却費など実際に現金の支出を伴わない費用などの「損益勘定留保資金」や、当年度純利益から積立てられた積立金などの利益剰余金で企業内部に留保されている資金のことです。

公営企業会計において、資本的収支不足額に内部留保資金を充当することとなっています。

内部留保資金が不足してしまうと、水道施設の更新、耐震化ができなくなります。

< 資本的収支の概要 >

- ・ 建設改良工事は、約 19 億 9,267 万円で、事業を精査しつつ、計画的に整備を進め、水道事業ビジョンに示す目標は、概ね達成できました。
- ・ 施設の建設改良工事が増加しているため、企業債の借入額が償還額に対して多くなっています。

このため、令和 4 年度末の企業債残高は、対前年度比で、約 4 億 9,400 万円増となり、将来世代への大きな負担となることが懸念されます。